

高砂香料工業株式会社

2023年3月期 第2四半期(上期) 決算説明会

証券コード:4914

2022.11.28

- I. 2023年3月期 上期業績
- II. 2023年3月期 通期業績予想
- III. サステナビリティの取り組み
- IV. Appendix

I. 2023年3月期 上期業績

2023年3月期上期業績

	2022/3 上期業績	2023/3 上期業績	前期比	為替影響除く 前期比
売上高	829	952	+14.8%	+8.0%
売上総利益 売上総利益率	262 31.6%	285 29.9%	+8.9% △1.6P	— —
販売管理費	208	237	+13.9%	—
営業利益 営業利益率	54 6.5%	48 5.0%	△10.7% △1.4P	△14.8% —
親会社株主に帰属する 当期純利益	44	54	+22.6%	—

[単位：億円]

期中平均為替レート USD： 108円 123円 +15円
EUR： 130円 134円 +4円

Point!

- 過去最高上期売上高を達成
- 原料価格・エネルギー価格上昇等による経費増により営業利益が減少
- 為替差益約20億円により、親会社株主に帰属する当期純利益を押し上げ

地域セグメント

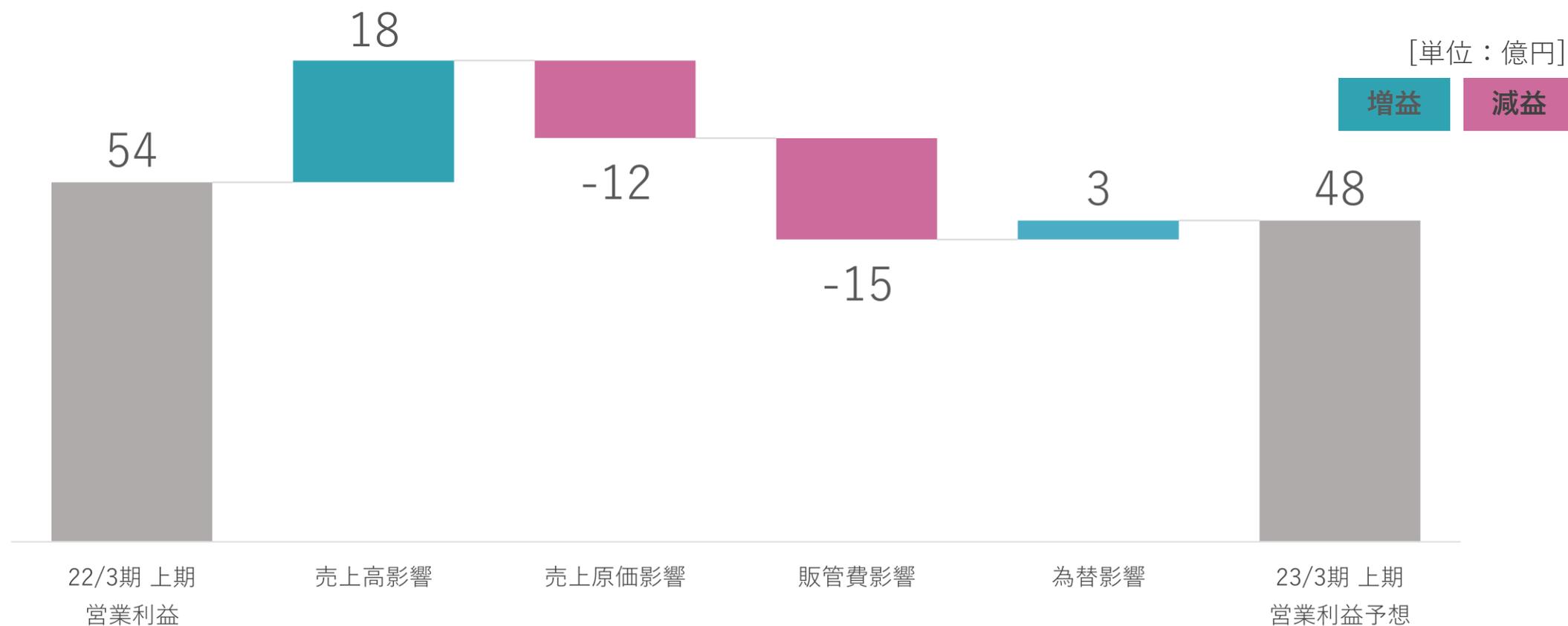
	売上高				営業利益			
	2022/3 上期業績	2023/3 上期業績	前期比	為替影響 除く 前期比	2022/3 上期業績	2023/3 上期業績	前期比	為替影響 除く 前期比
日本	353	382	+8.4%	-	16	21	+28.6%	-
米州	191	229	+19.5%	+4.5%	16	6	△60.9%	△65.7%
欧州	142	165	+16.4%	+12.5%	7	10	+47.9%	+43.1%
アジア	143	176	+23.0%	+8.0%	15	13	△12.5%	△23.4%
調整	-	-	-	-	△0	△2	-	-
合計	829	952	+14.8%	+8.0%	54	48	△10.7%	△14.8%

[単位：億円]

Point!

全地域セグメントで増収を達成するも、米州セグメントにおいてインフレなどによる経費増や原料の高騰等による減益が響き、全体では減益

営業利益の増減分析



Point!

ロシアのウクライナ侵攻などによる物流の混乱や原料価格・エネルギー価格の上昇、そして米国を中心とするインフレによる経費増があったものの、好調な売上高により堅調に推移

II. 2023年3月期 通期業績予想

為替の前提、感応度

● 為替の前提

	2022/3	2023/3		
	通期実績	期初予想	上期実績	通期予想
U S D	110円	112円	123円	132円
E U R	130円	130円	134円	138円

● 為替感応度 (1円円高/円安のケース)

● 売上高に対する影響

- USD = 約5億円減収/増収
- EUR = 約3億円減収/増収

● 営業利益に対する影響

- USD = 約16百万円減益/増益
- EUR = 約8百万円減益/増益

2023年3月期 通期予想

[単位：億円]

	2022/3 通期業績	2023/3 通期予想	前期比
売上高	1,624	1,725	+6.2%
営業利益 営業利益率	88 5.4%	50 2.9%	△43.3% △2.5P
経常利益	102	55	△45.9%
当期純利益	89	51	△42.8%

期中平均為替レート

USD :	110円	132円	+22円
EUR :	130円	138円	+8円

Point!

- 過去最高売上を達成見込み
- 原料の高騰、光熱費や物流費、システム関連費用の増加など各種経費の増加もあり、下期は収益が悪化する見込み

地域セグメント

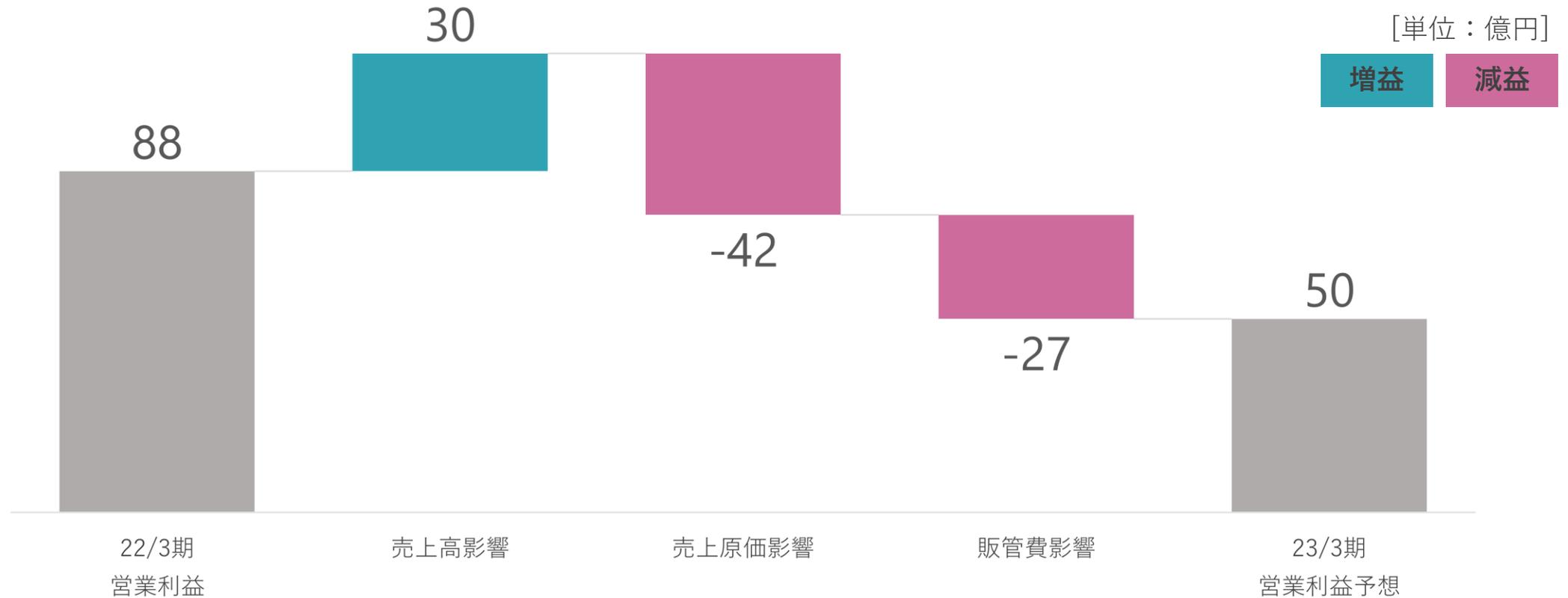
	売上高			営業利益		
	2022/3 通期業績	2023/3 通期予想	前期比	2022/3 通期業績	2023/3 通期予想	前期比
日 本	675	703	+4.1%	38	13	△64.9%
米 州	384	476	+24.1%	24	3	△86.6%
欧 州	282	326	+15.6%	9	15	+74.9%
ア ジ ア	284	370	+30.5%	23	24	+2.8%
調 整	-	△150	-	△5	△5	+8.2%
合 計	1,624	1,725	+6.2%	88	50	△43.3%

[単位：億円]

Point!

- すべての地域で増収を達成見込み
- 営業利益に関しては、地域によりばらつきあり

営業利益の増減分析



Point!

売上高の伸長により利益増も、原料費の高騰や各種経費の増加により、営業利益は前期の88億円から50億円へと減益となる見通し

設備投資・減価償却費・研究開発費

[単位：億円]

	2022/3 実績	2023/3 予想
設 備 投 資	80	76
減 価 償 却 費	69	75
研 究 開 発 費	129	145

Point!

- 設備投資：更新投資が中心。前期比微減
- 減価償却費：システム関連償却費の増加もあり、微増
- 研究開発費：為替の影響もあり、高水準で増加

III. サステナビリティの取り組み

Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

中期経営計画
【NGP-1】

2021-2023年度

3つの基本方針

海外の成長促進
国内の利益改善
サステナビリティの推進



2021年に策定した、高砂におけるサステナビリティに関する取組みの指針となるもの

サステナビリティ基本方針

高砂香料グループは、Vision2040「人にやさしく、環境にやさしく」に則り、多様な価値観を尊重し、自然との共生を目指します。公正かつ透明な企業活動を通じて、社会課題の解決に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

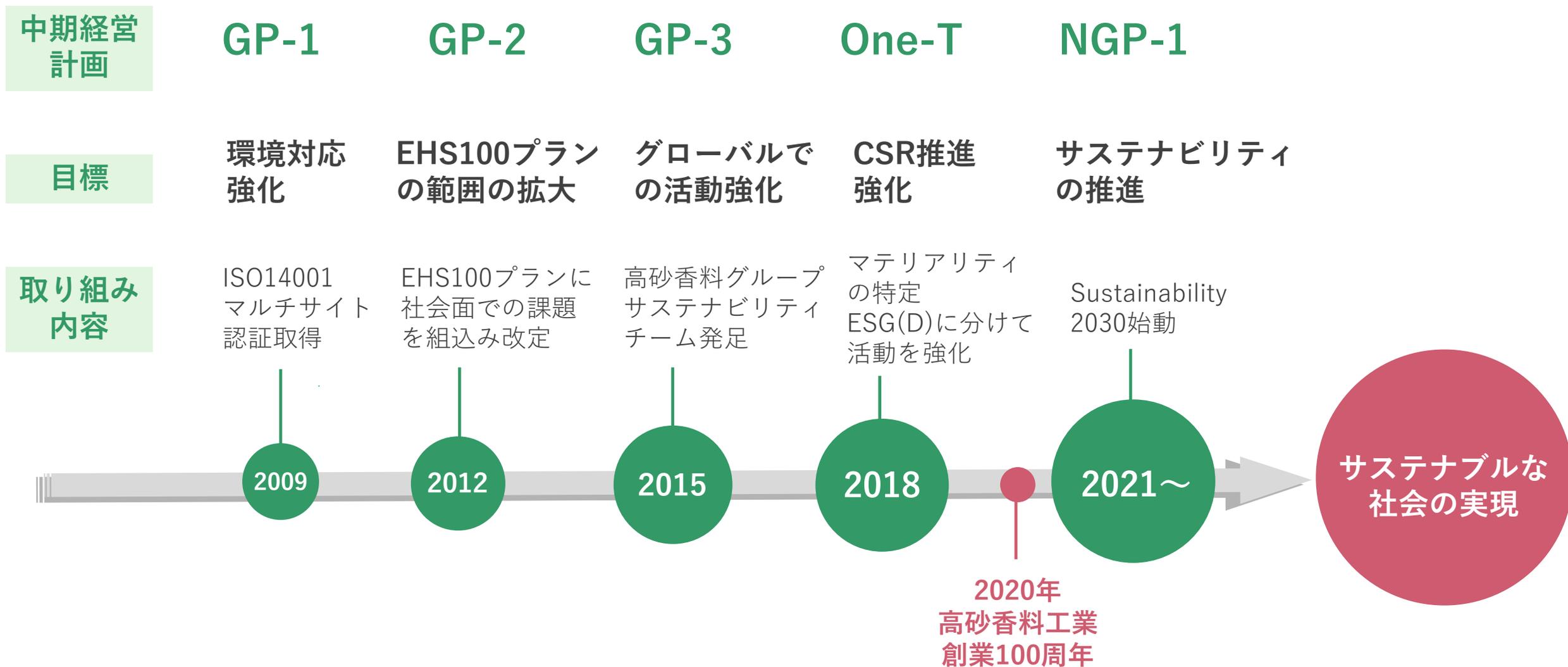
マテリアリティ

高砂香料グループが取り組むべき課題を優先付けしたもの

Sustainability2030

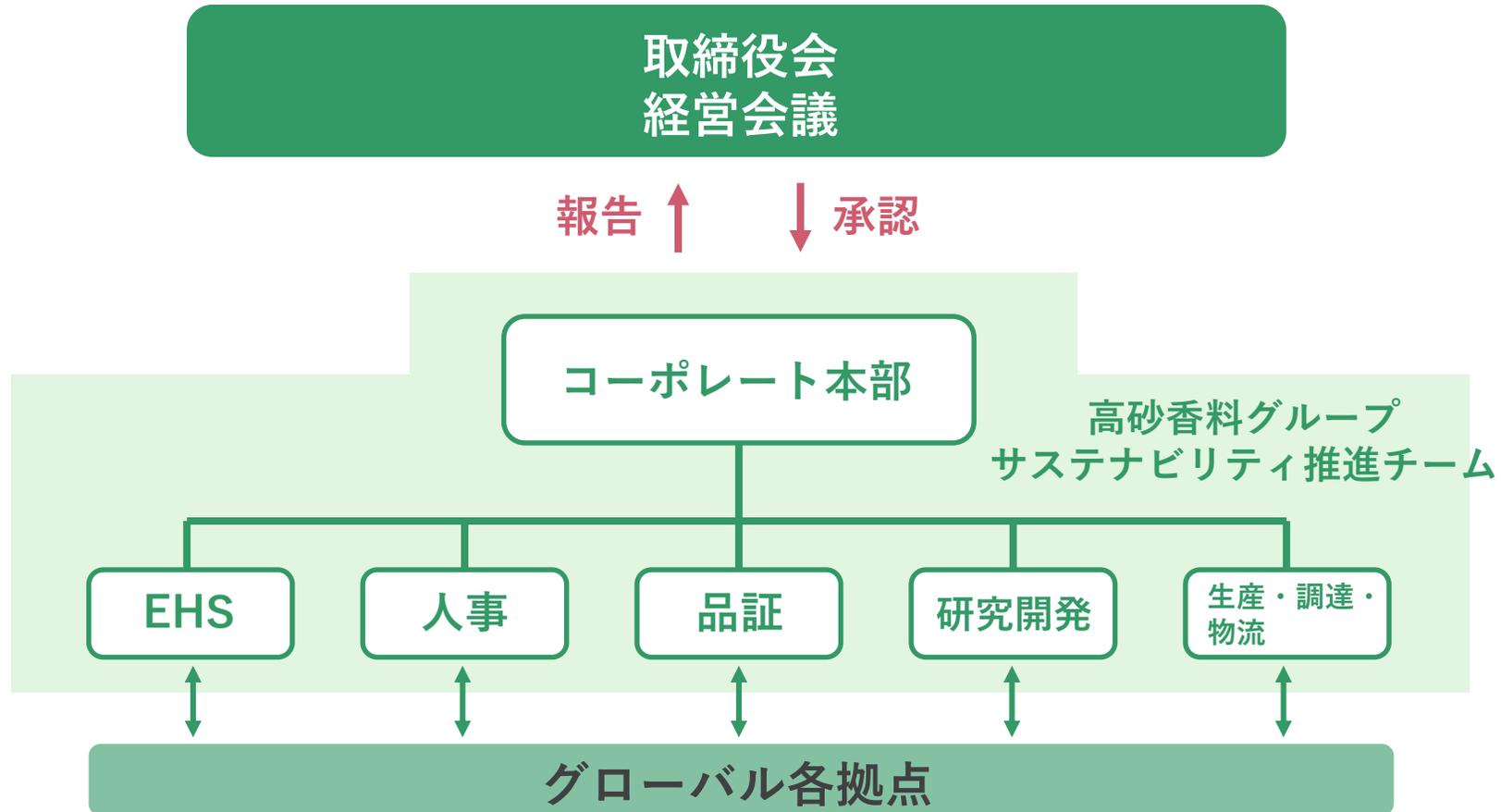
マテリアリティを達成するための具体的な活動計画

サステナビリティのあゆみ



サステナビリティ経営の推進体制

グループ一体となった実行性を確保できる推進体制



サステナビリティ計画 “Sustainability 2030”において設定した重点項目

気候変動

環境負荷低減

労働安全衛生

地域コミュニティ

責任ある調達

グリーン
ケミストリー

人権

透明性

環境負荷低減

温室効果ガス(GHG)排出量削減

2030年までにGHG排出量27.5%削減を掲げ、2021年にはGHG排出量5.9%削減を達成



責任ある調達

サステナブルなバニラ

持続可能なバニラ産業に貢献するため、2022年に“Sustainable Vanilla Initiative”のメンバーに加入
フェアトレード認証である”Fair for life”を取得し、自社原料のサステナビリティが認証として認められた



グリーン
ケミストリー

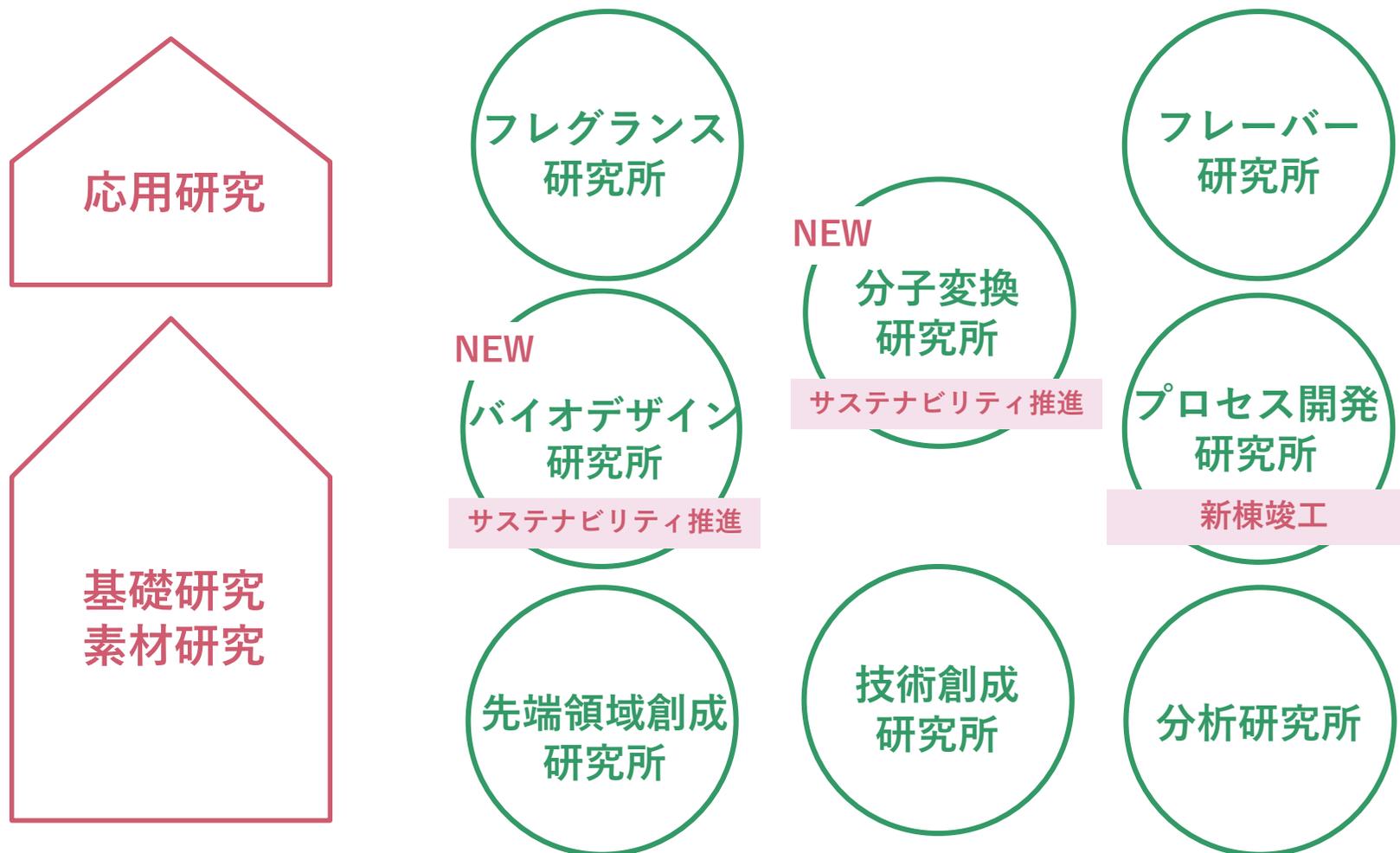
Sustainable Scent™（サステナブルセント）シリーズ

再生可能原料を使用し、発酵や触媒反応等のグリーンプロセスを用いて環境に配慮した次世代型のアロマイングリディエント製品カテゴリーを製造



サステナブルを推進する研究所体制の機構改革

2022年7月に研究開発体制を刷新・強化



参考 -情報開示の取組み-

Webサイト上での情報公開

<https://www.takasago.com/ja/sustainability>



「社会環境報告書」(日本語)と
”Sustainability report”(英語)を毎年制作



※2022年版は12月1日発刊予定



本日は、ありがとうございました。

※注意事項

本資料は、2022年11月28日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

問合せ先：IR/広報室

TEL: 03-5744-0523 FAX:03-5744-0512

<https://www.takasago.com/ja>

E-mail: ir@takasago.com

IV. Appendix

創業精神

技術立脚の精神に則り社会に貢献する

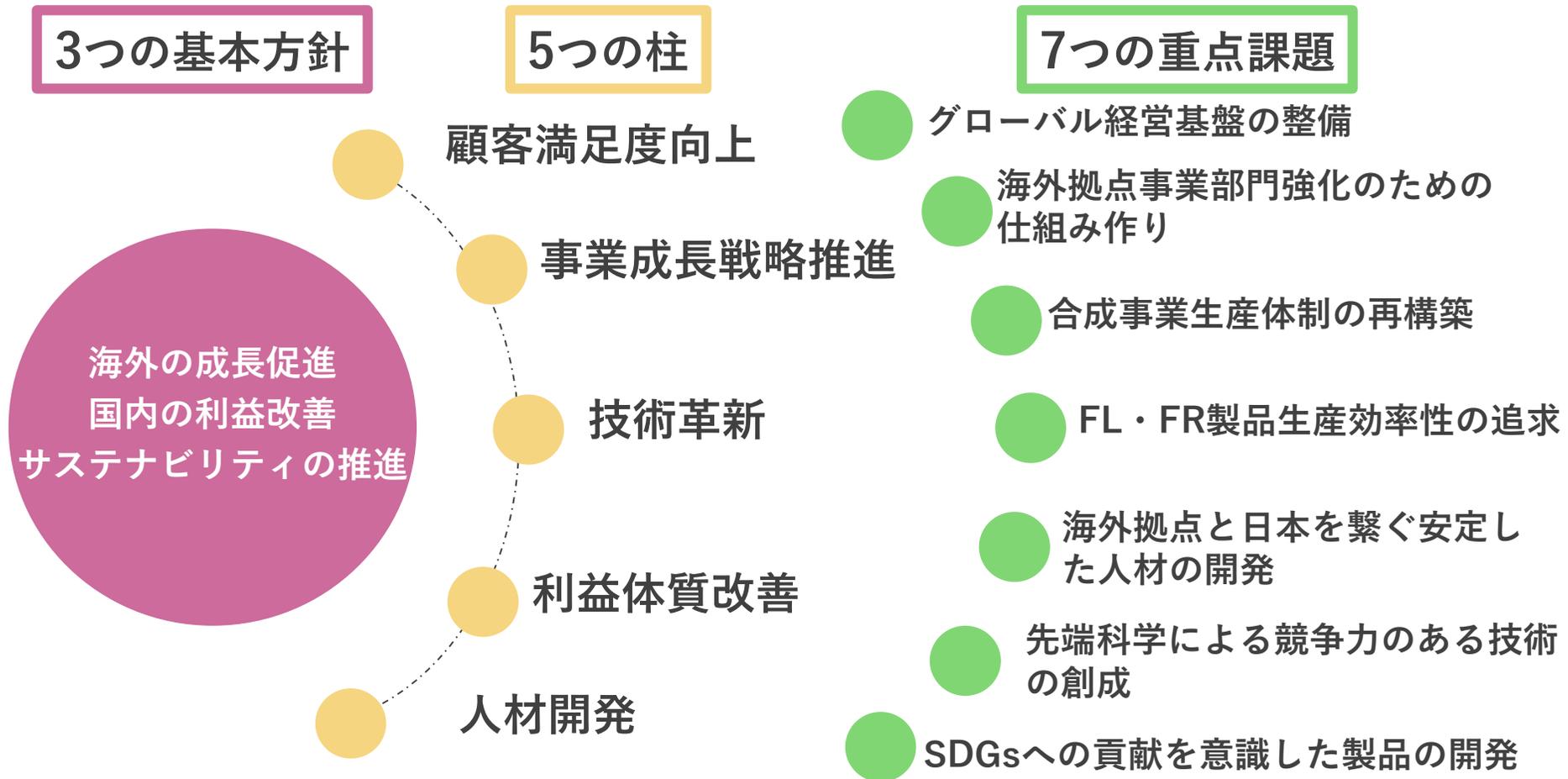
企業理念

香りを原点とする革新的な技術を通して、
新しい価値を創造し続ける

Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

1. 多様な価値観を尊重する
2. 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
3. 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
4. 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社



各事業の特徴

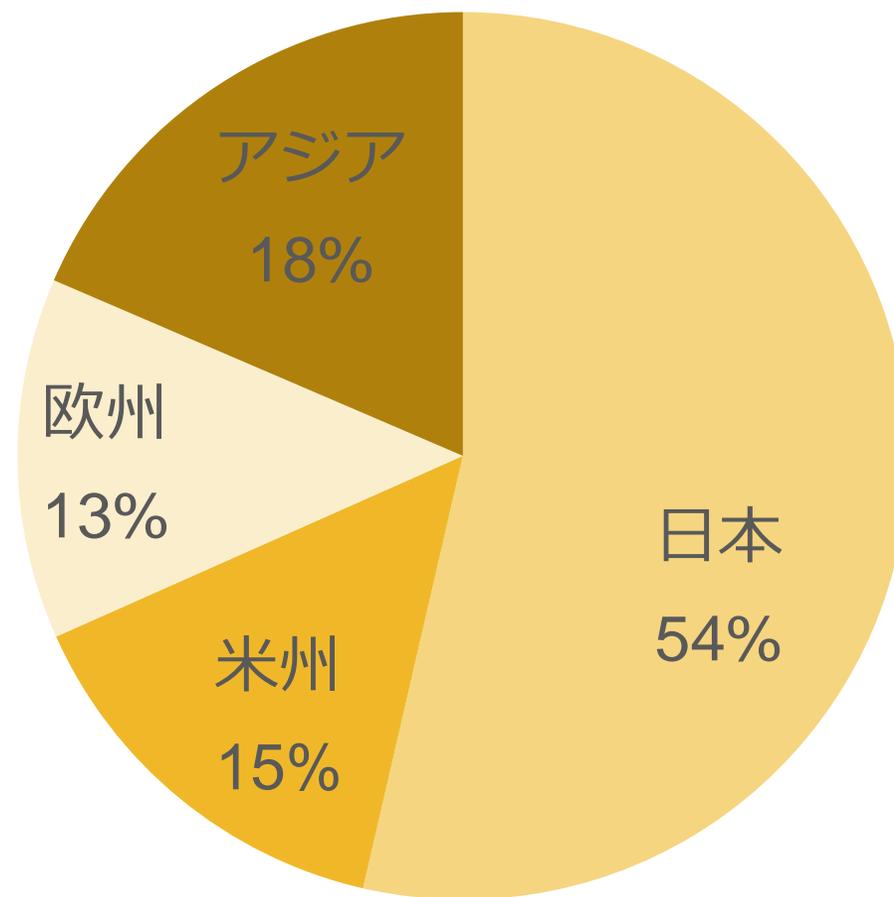
	フレーバー	フレグランス	アロマ イングredients	ファイン ケミカル
製品用途	飲料、製菓、スープ、デザート等食品全般	衣料用洗剤・柔軟剤、化粧品、芳香剤等	香料の原料 (フレーバー、フレグランス)	医薬品中間体、機能性材料、触媒、農薬中間体
主要顧客	食品メーカー	日用品メーカー 化粧品メーカー	同業他社、自社使用	医薬品メーカー 電機電子メーカー
競合先	香料会社(同業)等	香料会社(同業)等	香料・化学メーカー、天然品市場(メントール)	化学メーカー等

【参考】事業セグメント情報

[単位：億円]

	売上高			営業利益		
	2022/3 上期業績	2023/3 上期業績	前期比	2022/3 上期業績	2023/3 上期業績	前期比
フレーバー	490	544	+10.9%	25	25	+0.5%
フレグランス	237	274	+15.3%	11	△2	△113.6%
アロマイジング リディエーツ	60	67	+10.9%	9	9	△2.2%
ファイン ケミカル	34	61	+79.9%	2	9	+328.3%
その他	7	7	△0.8%	6	6	△1.7%
合計	829	952	+14.8%	54	48	△10.7%

一定のルールに基づいた社内資料を基に作成。今後数値の精緻化を推進。



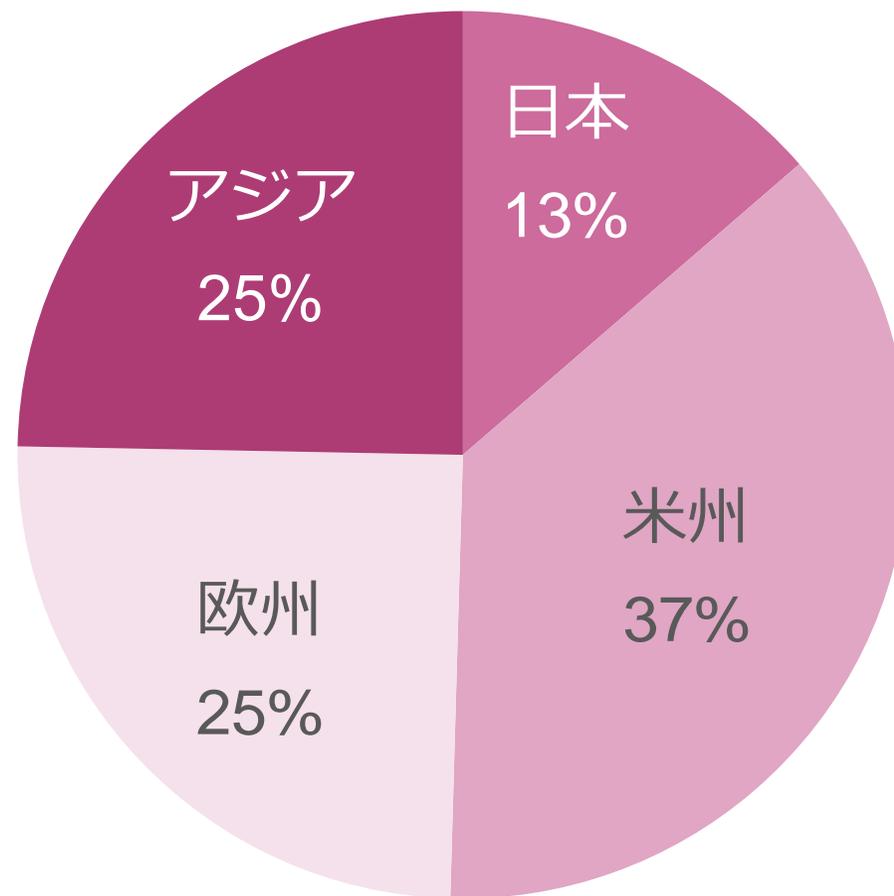
※2023年3月期第2四半期

目標

- アジア・フォーカス
- フレーバーを超えたフレーバー ”Beyond Flavor”の開発
- 天然素材ポートフォリオ拡充

施策

- フォーカスする地域、フォーカスする顧客でのプロジェクト獲得のため、リソースの集中
- 健康志向の高まる市場に対応し、減塩、減糖、代替肉製品を”KOKU”やマスキング等の技術を活かしたソリューションの提供
- 天然素材製造のための既存設備の増強及び新規設備投資の実施



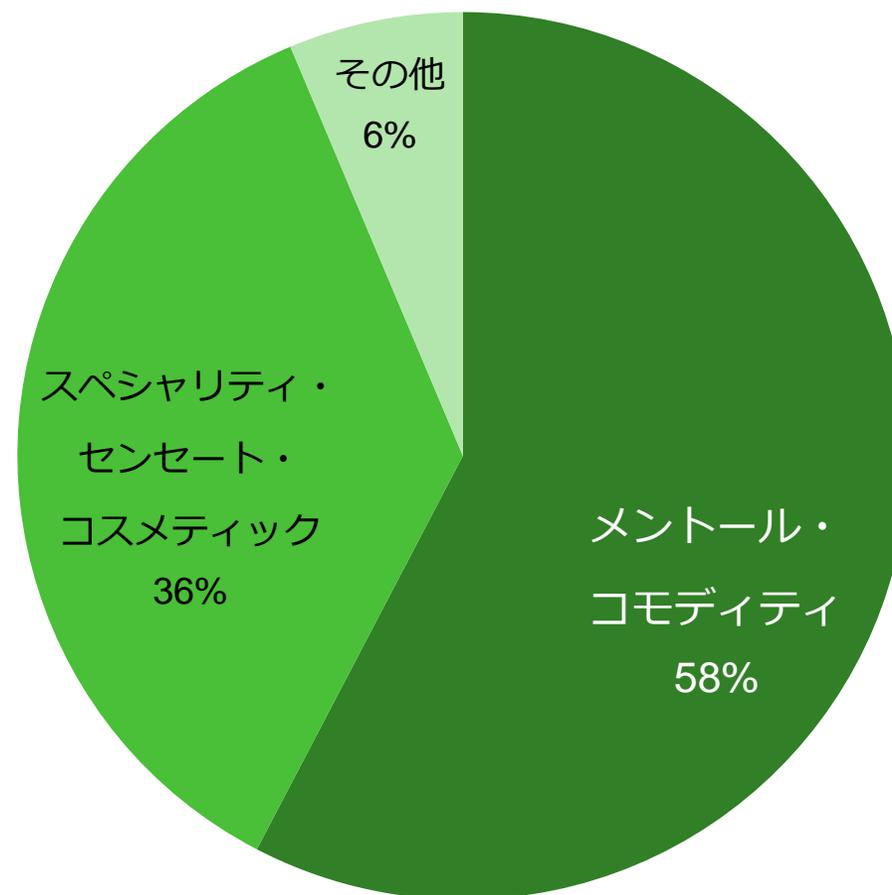
※2023年3月期第2四半期

目標

- 事業成長戦略推進（製品・顧客・地域）
- 利益体質改善
- 香りの付加価値を高める技術の活用

施策

- ターゲットカテゴリー、エアケア、パーソナルケア、ファブリックケア及びマルチナショナル・主要ローカル顧客へのリソースの集中
- 販売価格の適正化及びコスト削減施策による利益体質改善
- Well-being(心身の健康)・Hygiene(衛生)に繋がる香り周辺技術や、サステナビリティ・SDGs等に配慮した高付加価値香料開発による競争力強化



※2023年3月期第2四半期

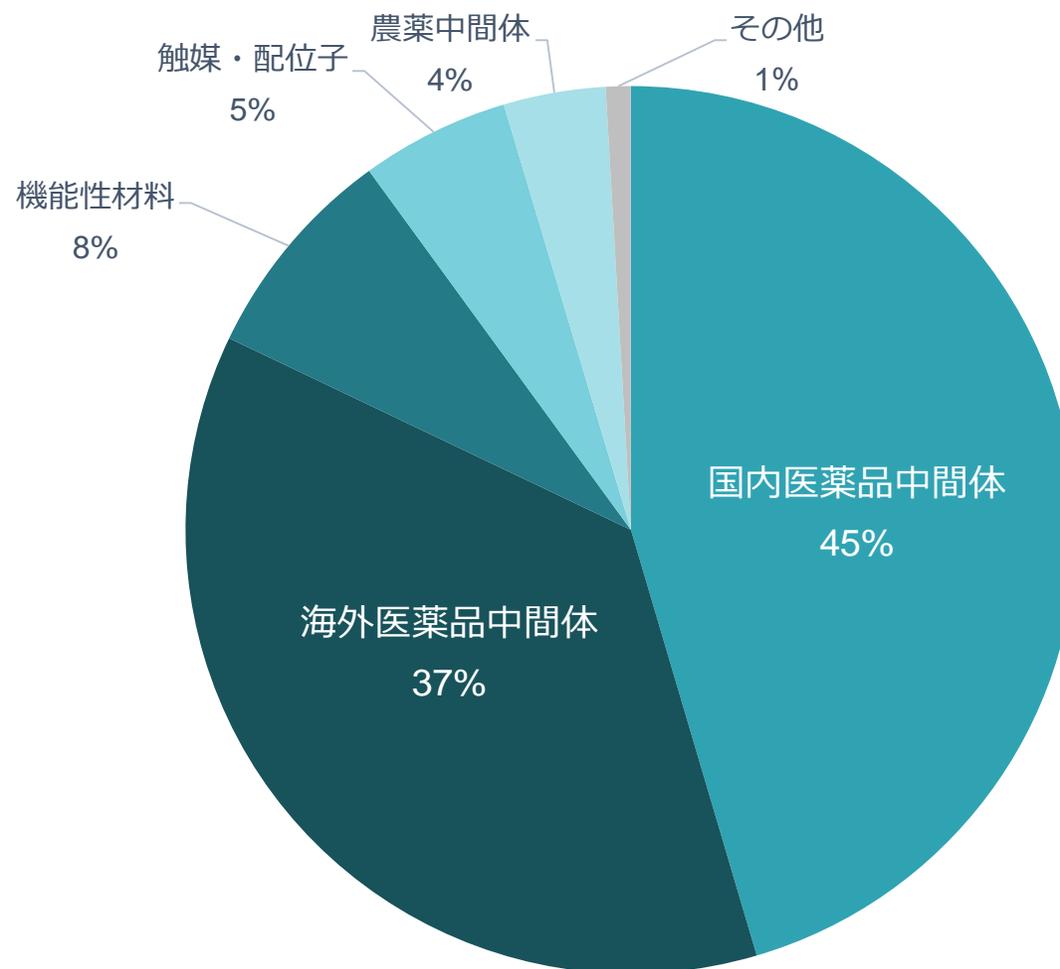
目標

- サステナブル、循環社会への対応強化
- スペシャリティーによる製品ポートフォリオの拡充

施策

- 化石原料由来の既存AI品目のBIOSWITCH®（プロセスや原料変更による再生可能なAIへ変換）やバイオ技術による天然由来AI品の開発
- 生分解性を有する再生可能AI品の開発
- 害虫忌避剤等の新規市場への展開

ファインケミカル事業 カテゴリ別 当社売上実績



※2023年3月期第2四半期

目標

- ポートフォリオ（顧客、製品、技術）の拡充
- サプライチェーンの強化

施策・進捗

- 既存設備の強化による需要増への対応
- 連続フロー技術の深化及び触媒技術との融合
- サプライチェーンの再構築

国内外部パートナーとの連携強化を推進中

目標

- 先端科学による競争力のある技術の創成
- SDGsへの貢献を意識した製品開発

施策

- オープンイノベーション推進による最新技術の確立・活用
- 生理心理・官能評価技術、計算科学・人工知能等を活用した独自性の高い情報資産創出の加速
- 環境負荷軽減、エネルギー効率に配慮したプロセス開発
- 再生可能資源や未利用資源を利用した素材・製品開発

2021年における主なサステナビリティ活動進捗

項目	Phase1(2021~2023)目標	2021年活動報告
1 気候変動		
	SBTi認証取得と削減に向けたアプローチの確立	2021年5月にSBTi認定を取得。エネルギー削減プログラムを立ち上げ削減策の具体的な検討を進行中。
2 環境負荷低減		
GHGガス排出量削減	2030年までに27.5%の削減	対前年-5.9%
水使用量削減	2030年までに10%の削減	対前年比+0.3%（殆どすべての製造拠点で増産に伴い水の使用量が増加したため）
廃棄物排出量削減	年間0.5%の削減(2030年までに5%の削減)	産業廃棄物発生量:対前年比+18.4% 最終処分率:0.76% → 前年は1.86%。すべての廃棄物を通じて最終処分(埋立)率が低下。
3 労働安全衛生		
コンプライアンス	・法規管理を含むグローバルEHS情報管理・知識 ・共有システム構築の検討	発信すべきEHS情報の項目、情報源、対象者、手段、頻度等の整理を実施。
化学物質管理	化学物質管理状況の調査	国内外統一した管理方法を検討中。
ワークライフバランスの向上	セルフケア、ラインケア推進のための研修の実施	健康宣言を公表し、健康経営を推進することを社内外に宣言。オンラインでセルフケア、ラインケア研修を実施。
4 地域コミュニティ		
	社会貢献活動年間計画表の作成及び実行	各拠点ごとに年次計画を作成。国内においては、活動の水平展開の為各拠点での活動内容の報告会を実施。

2021年における主なサステナビリティ活動進捗

項目	Phase1(2021~2023)目標	2021年活動報告
5 グリーンケミストリー		
	再生可能原料を活用した環境に優しい香料素材の開発	高活性・高選択性触媒の開発、再生可能資源やホワイトバイオテクノロジーを活用した環境に優しいプロセスや香りの素材の開発などを進行中。
6 責任ある調達		
原材料における取組み	責任ある調達ポリシーの運用	2021年12月までに高砂香料グループの全原料サプライヤーに同ポリシーを配布し、約1,250社中約500社(40%)より同意書を取得。
全社的な取組み	サプライヤー行動規範の改定、周知	2021年3月高砂香料グループサプライヤー行動規範の改定を行い、各取引先へ周知。IT、人事総務、物流など各調達先に向けた「責任ある調達ポリシー」の作成に着手。
7 人権		
	第3者機関の知見を活用した人権、労働環境の定期的見直し、改善スキームの構築	主要拠点は3年に一度SEDEX監査を受審、必要に応じグローバルで水平展開を行っている。
	人権デューデリジェンスの継続実施	2021年も高砂香料グループ内全拠点で実施。チェック項目による確認に加え、海外拠点とのTV会議を行うなど内容の深堀も図った。
8 透明性		
非財務情報	開示内容、情報の充実	Sustainability Report、社会環境報告書の定期的発行に加え、HPやLinkedInを通して活動内容を発信。
製品への環境等へのインパクト	LCA、Sustainability ID Scoreの導入	<ul style="list-style-type: none"> ・LCA：L-メントール(磐田製造品)についてCO2排出量の試算が終了。 ・Sustainability ID Score：導入済み。